

## II 各教科の正答率、問題の内容及び所見・解説

### 1 国語

#### (1) 正答率

問題	配点	正答		一部正答		誤答		無答		通過率 率 = $\frac{\text{得点計}}{\text{人数} \times \text{配点}}$ (%)	
		数	率 (%)	数	率 (%)	数	率 (%)	数	率 (%)		
1	問 1	4	322	80.5	0	0.0	77	19.3	1	0.3	80.5
	問 2	4	354	88.5	0	0.0	45	11.3	1	0.3	88.5
	問 3	6	135	33.8	67	16.8	165	41.3	33	8.3	42.5
	問 4	7	114	28.5	155	38.8	77	19.3	54	13.5	48.8
	問 5	5	160	40.0	61	15.3	175	43.8	4	1.0	47.9
2	問 1 (1)	2	177	44.3	0	0.0	214	53.5	9	2.3	44.3
	問 1 (2)	2	217	54.3	0	0.0	158	39.5	25	6.3	54.3
	問 1 (3)	2	354	88.5	0	0.0	37	9.3	9	2.3	88.5
	問 1 (4)	2	223	55.8	0	0.0	134	33.5	43	10.8	55.8
	問 1 (5)	2	288	72.0	0	0.0	80	20.0	32	8.0	72.0
	問 2	3	191	47.8	0	0.0	208	52.0	1	0.3	47.8
	問 3	3	230	57.5	0	0.0	168	42.0	2	0.5	57.5
	問 4 (1)	3	281	70.3	0	0.0	117	29.3	2	0.5	70.3
	問 4 (2)	2	337	84.3	0	0.0	60	15.0	3	0.8	84.3
	問 4 (3)	3	320	80.0	10	2.5	59	14.8	11	2.8	81.6
3	問 1	4	330	82.5	0	0.0	69	17.3	1	0.3	82.5
	問 2	7	47	11.8	223	55.8	67	16.8	63	15.8	41.2
	問 3	4	268	67.0	0	0.0	130	32.5	2	0.5	67.0
	問 4	4	173	43.3	0	0.0	225	56.3	2	0.5	43.3
	問 5	7	64	16.0	104	26.0	94	23.5	138	34.5	29.8
4	問 1	3	69	17.3	50	12.5	207	51.8	74	18.5	23.8
	問 2	3	332	83.0	0	0.0	60	15.0	8	2.0	83.0
	問 3	3	132	33.0	23	5.8	220	55.0	25	6.3	36.3
	問 4	3	174	43.5	0	0.0	218	54.5	8	2.0	43.5
5	12	39	9.8	335	83.8	17	4.3	9	2.3	62.1	

(小数第2位を四捨五入しているため、%の合計が100にならない場合がある。)

#### (2) 問題の内容

- 1 出典は辻村深月著『この夏の星を見る』である。問題文として使用した箇所は、登場人物の真宙が小学校のサッカーチームの先輩である柳数生(柳くん)と再会し、かつて憧れの先輩だった柳くんがサッカーを離れ、「答えがないことが楽しいから」という理由で、物理部に入って研究や観測をしていることに衝撃を受ける、という場面である。文章は第三者的な視点から描きつつも、全体としては真宙の心情に寄り添った形で描かれており、真宙の心内文や周囲の描写、同じ場にいる天音の言動等も踏まえながら、文章を丁寧に読み取ることが求められる。
- 2 基本的な漢字の読みと書き、基本的な文法についての理解(助動詞・形容詞の識別)、語句の構成についての理解、スピーチ原稿とその内容について解答する問題である。
- 3 出典は小川さやか著「手放すことで自己を打ち立てる——タンザニアのインフォーマル経済における所有・贈与・人格」(岸政彦・梶谷懐編著『所有とは何か——ヒト・社会・資本主義の根源』所収)である。問題文として使用した箇所は、モノに所有者の人格が付帯することで、その価値や贈与、所有の在り方を変えていくということについて論じた部分である。身近な具体例を挙げながら、近代的な「私的所有論」とは異なる考え方を提示しており、受検生にとって論理的思考や多角的な見方を通して、自らの思考を深めることができるものであると考えられる。
- 4 出典は『一休ばなし』である。問題文として使用した箇所は、「一休ならの薪にて百姓の訴状を

書給ふ事」(巻之一)の後半である。全体として平易な表現で記述され、物語として一貫した流れがあるため、話の展開を読み取りやすい文章だったと考えられる。

- 5 資料は、「埼玉県におけるSDGsの推進について」(令和4年度)をもとに作成されたグラフである。資料を読み取ったことをもとに、「持続可能な社会を築くためにわたしたちができること」について自分の考えが相手に効果的に伝わるよう、自己の体験を踏まえ、展開を工夫して書く力をみようとした。

### (3) 所見・解説

- 1 文学的な文章を理解する力をみようとした問題である。

問1 文章中の描写に注意して読み、内容を的確に捉える力をみる問題である。ここでは、本文冒頭から、傍線部①の後「だけど、何も確認できない。」までの描写に着目する。真宙が思わず空を見上げた理由は、天音の「ひょっとして、ウチュウセンの観測ですか?」という発言を受けて、傍線部①の直前にあるように、「頭の中に……『宇宙船』がイメージされ」、確認しようとしたからである。こうした真宙の様子について、最も適切に説明している選択肢はイである。

問2 登場人物の言動に注意して読み、その心情を読み取る力をみる問題である。ここでは、特に傍線部②の直前に着目する。「体温がずっと下がっていく感覚」がした直接の原因は、サッカーだけでなく、陸上部をやめてしまったらしい柳くんに対し、「陸上部は?」と思わず聞き、柳くんに「びっくりしたように真宙を見つめ返」されたことによって、聞いてはいけないことを聞いてしまったのではないかと感じたからである。こうした真宙の心情について、最も適切に説明している選択肢はエである。

問3 文章の内容を捉えて登場人物の心情を読み取り、条件に応じて適切に表現する力をみる問題である。傍線部③は、直前の「え……という声が、これは真宙と天音、両方の口から洩れた。」から、柳くんが二人に思い違いをさせたことへの気まずさを表していることが分かる。そこで直前の天音の発言を見ると、天音は**物理部**の活動は難解な物理への**センス**がないとできないと思いつていることが読み取れる。こうした読みを踏まえ、指示された字数と文脈に合うようにまとめる。

問4 登場人物の設定の仕方を捉えて内容を理解し、条件に応じて適切に表現する力をみる問題である。真宙が柳くんから受けた衝撃は、文中に「ショック」、「視界の一部がチカチカ点滅」、「途方に暮れたような」という表現で示されている。これらの箇所から、本文の中盤で「柳くんが**スポーツ**の世界から離れてしまうなんて、想像もできなかった。」と考えていた真宙は、「答えがないことじゃないかな」や「今、自分たちが観測していることが答えそのものになっていくってうか。まだない答えを探してるって気持ちが強くて、そこが楽しいのかもしれない」などの柳くんの「**答え**」に衝撃を受けていることが読み取れる。以上を踏まえて、指示された字数と文脈に合うようにまとめる。

問5 表現上の工夫に注意して読み、内容を的確に捉える力をみる問題である。正答はウとオである。真宙が「えっと目を見開いた」のは、柳くんが物理部に入っていることを知ったからであり、「天音が初対面の柳くんに気軽に話しかけている様子」が真宙の驚きの理由ではないため、ウは誤りである。また、本文は真宙、天音、柳くんの三者がやりとりをする『**現在**』の場面のみで構成されており、『**過去**』の場面は描写されていないため、オは誤りである。文学的文章を読むときは、語り手や比喻表現、どんな場面が描かれているかにも注意する必要がある。

- 2 基礎的・基本的な言語能力をみようとした問題である。

問1 基本的な漢字の読みと書きの力をみる問題である。

(1)の「頒布」は、「ふんぷ」「ひんぷ」など「頒」の読み誤りが多かった。また(4)の「就任」は、「修任」「集任」「終任」など、様々な誤答がみられ、語彙として定着していない傾向がみられる。日常での漢字学習の際に、語彙として意味を理解するとともに、同音語や同訓語は文脈の中において適切な漢字を判断しながら使用するなどの学習の工夫が必要である。

問2 基本的な文法の知識(助動詞・形容詞の識別)についての理解をみる問題で、正答はアである。誤答としては、エ「形容詞」を選んだものが最も多かった。文章の中での語句の意味を考

え、言語の法則を見いだすことは、言語生活の向上をめざすうえでも大切なことであり、品詞の特徴やはたらきを理解しながら学んでいく必要がある。

問3 熟語の構成についての理解をみる問題で、正答はウである。語感を磨き語彙を豊かにするうえで、熟語の意味を理解し、文法的な構成にも着目する学習が求められる。

問4 全校集会でスピーチするための原稿をもとに、接続詞や指示語に着目して文を並びかえたり、文節の対応が自然になるように推敲したりする問題である。

(1) スピーチの流れに沿って文を並びかえる問題である。初めの「地産地消とは、どのような意味でしょうか。」の問いかけに対する答えはエである。次は、エの選択肢を受けて「その地産地消の現状について、……」と話題を広げる内容であるアが適切である。その後続くイとウは、接続する語句がそれぞれ「次に」「まず」であり、文章の構成上「まず」が先にくるので、ウ→イとなる。よって、正答はエ→ア→ウ→イとなる。

(2) 話すことにおける、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する力をみる問題である。表現の工夫としては、聞き手の興味や関心などを考慮しながら、話す速度や言葉の調子、言葉遣いなどに注意することが重要である。今回は全校集会で聞き手に向かって話すことから、話し方として適切でないものはイである。

(3) 文の組み立ての関係についての理解をみる問題である。原稿中の文の不自然な点は、「野菜がよく給食に使われる」という事実のあとに「のは」とあるのに対して、「採れます」と言い切りの文末表現が使われていることである。「～のは(～だ。)」は、後の内容を強く言いたいときに使う表現であり、文全体の主張を強めるはたらきがある。「(事実)＋のは～(説明、理由、強調したいこと)だ。」の意味をもち、本文においては(事実)に対する理由を説明する文型である。正答例は「採れるからだ」を敬体にした「採れるからです」となる。

3 説明的な文章を理解する力をみようとした問題である。

問1 文章に書かれている内容を正しく読み取り、理解する力をみる問題である。「こうした循環」は傍線部①直前の、形式段落2で説明されている内容から考える。ここでは、タンザニアにおけるリサイクルの例を挙げ、「誰かがひとたび所有したモノが贈与や転売を通じて別の誰かの所有物となる。それが何度も繰り返されることで、モノは『私のもの』『誰かのもの』『さらに別の誰かのもの』『ふたたび私のもの』などと変化を遂げながら、社会の中で循環してきた。」とあることに着目する。この読み取りに合致する選択肢はエである。

問2 主張と例示との関係を捉えて内容を理解し、条件に応じて適切に表現する力をみる問題である。傍線部②を含む形式段落5では、万年筆が文豪に使われていたという「社会的履歴」によって価値が高くなること、あるいはその万年筆を購入した富豪が不審な死を遂げたという「社会的履歴」によって、価値が下がることが述べられている。形式段落6では、「多くのモノや財は『個人化・人格化』と『商品化』を行き来している。」、形式段落7の冒頭では「元の所有者や関係者のアイデンティティがモノに付帯する」と述べられており、以上を踏まえ、指示された字数と文脈に合うようにまとめる。

問3 文章全体と部分との関係に注意して読み、内容を正確に理解する力をみる問題である。ここでは、傍線部③を含む形式段落9に着目する。傍線部③に続いて、「それは、そのマフラーにマフラーを編んだ恋人の思い、すなわち魂が込められているように感じられるからだろう。」と述べられており、続けて「贈り手の人格が憑いていると感じ、」「そのモノとの関係だけでなく、そのモノを媒介にして恋人への執着と決別するという儀式になる」がある。この読み取りに合致する選択肢はアである。

問4 文章の論理の展開を捉えて、内容を理解する力をみる問題である。ここでは、形式段落10に着目する。「所有(私的所有)」については、形式段落10で「『個人』が所有物に対して排他的な権利を有する」と説明されている。それと「対立するものとみなす」ということは、「他者への贈与や分配」をすると、「排他的な権利」が失われてしまうということである。この読み取りに合致する選択肢はイである。

問5 複数の情報を整理しながら内容を理解し、条件に応じて適切に表現する力をみる問題である。ここでは、形式段落9～11に着目しつつ、文章全体の内容を踏まえて考える。傍線部⑤の「私的所有に失敗することを『損失』とみなし、贈与や分配を『利他的な行為』であるとみな

す」とは、形式段落 10、11 で述べられているように、「個人」が所有物に対して「排他的な権利」を有しているというものである。この考え方によれば、「私的所有に失敗する」とは、「排他的な権利」を失う「損失」であり、贈与や分配は、その権利を他者に譲り渡す「利他的な行為」となる。その上で筆者が「……必然性はどこにもない」と続ける理由は、「モノには元の所有者などのアイデンティティが付帯する」からである。本文においても形式段落 11 に「法的な権利とはべつに、贈り物をエージェントにして受け手に働きかけ続ける元の所有者は、その贈り物の所有権を放棄したと言えるのだろうか。そのモノはいまだ持ち主に帰属しているのではないか。」と説明されている。また、「贈り物をエージェントにして受け手に働きかけ続ける」方法としては、傍線部⑤の直前に「元の所有者がモノを媒介として財を譲り受けた者たちに働きかけている」と述べられている。以上を踏まえ、指示された字数と文脈に合うようにまとめる。

4 古典を理解する基本的な力をみようとした問題である。

問 1 場面や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する力をみる問題である。傍線部①の前後に「村々の百姓」が「免おほく給はること思ひもよらず。」とあることから、「かかる事」とは、年貢の減免のための一休の言動を指すことが分かる。一休が村々の百姓に「『長々しき状までもいるべからず。是をもちて近衛殿に捧げよ。』と歌よみてやらせたまふ。」とあることから、「かかる事」が指す内容は、近衛殿に一休が詠んだ歌を捧げることでであると判断できる。以上を指定字数内でまとめる。

問 2 文章に書かれている内容を、叙述に基づいて的確に捉える力をみる問題である。傍線部②以降に着目すると「ぜひなく、かの歌をささげければ」とあるので、「おのおの」は近衛殿に対して歌を捧げた人ということになる。一休は免税のために、百姓たちに歌を詠んで授けたという前半の内容も踏まえると、正答はアである。

問 3 歴史的仮名遣いについての理解をみる問題である。正答は「きょうじたまいて」である。おもな誤答には「こうじたまいて」や「けうじたまいて」などがあつた。文語のきまりを正確に理解するとともに、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことが大切である。

問 4 古典に表れたものの見方や考え方を捉え、内容を理解する力をみる問題である。Aさんの発言に着目し、上の句が「月とそれを隠してしまうむら雲」、「花とそれを散らしてしまう風」のように、それぞれの魅力を損なうものが組み合わせとなっていることを押さえる。そのうえで下の句と対比させると、「近衛殿の障害となるのは年貢を強引に取る左近の存在」という歌意になる。この読み取りに合致する選択肢はエである。

5 資料から読み取ったことをもとに、「持続可能な社会を築くためにわたしたちができること」についての自分の考えを、構成を工夫しながら、自らの体験を踏まえて書く力をみようとした問題である。資料は、埼玉県の令和 4 年度「第 208 回簡易アンケート『埼玉県における SDGs の推進について』」をもとに作成したものである。減点となった例としては、資料から読み取ったことだけを書き、自分の体験を踏まえた考えが書かれていないものや、読み取ったことと自分の考えが関連していないといった、条件を満たしていないものが多かった。また、誤字・脱字や接続詞・助詞の誤用、言葉の使い方間違いなども多くみられた。資料から情報を正確に読み取り、目的に応じて相手に伝わる文章を書くことができるように意識して、普段から学習する必要がある。